

たった  
 1日でもいいから  
 大人になって  
 すてきな  
 恋がしたかった……

彼女はあと2日で12才  
 泣かないと  
 心に誓った最後の誕生日ノ



Echoes of  
 a Summer

# 別れの だま



リチャード・ハリス  
 ジョディ・フォスター  
 ジェラルディン・フィッツジェラルド  
 ブラッド・サベジ  
 製作・脚本 ロバート・L・ジョセフ  
 監督 ドン・テイラー  
 音楽 テリー・ジェームズ

カラー作品

United Artists  
 A Paramount Company  
 ユナイテッド映画

# Echoes of a Summer

## ■スタッフ■

製作・脚本……………ロバート・L・ジョゼフ  
 監督……………ドン・テイラー  
 総指揮…………… {サンディ・ハワード  
                           {リチャード・ハリス  
 撮影……………ジョン・コキロン  
 音楽……………テリー・ジェームズ  
 主題歌作曲・歌……………リチャード・ハリス

## ■キャスト■

ユージン・ストライデン……………リチャード・ハリス  
 ディアドル……………ジョディ・フォスター  
 ルース・ストライデン……………ロイス・ネットルトン  
 セイラ……………ジェラルディン・フィッツジェラルド  
 ハレット医師……………ウィリアム・ウィングム  
 フィリップ……………ブラッド・サベージ



〈カラー作品〉  
**別れのこだま**

United Artists ユナイ映画  
 A Transamerica Company

### \*少女は自分の運命を知っていた—

静かな湖水を疾走するモーターボートの上からウィットとユーモアに富んだ父娘の会話が聞こえてくる。作家のユージン・ストライデンともうすぐ12才になる娘のディアドルだ。ブロードのショートカットをなびかせた少女のませたセリフを、父親は慈愛に溢れた表情で受けとめる。ここ米国東海岸の初秋の陽光がそんな少女を優しく包んでいた。しかしディアドル・ストライデンに未来はなかった。世界中の名医や大病院に見放された不治の心臓病が彼女に暗い影をつくっていた。父はそんな娘に対して、償いの意味をこめ、残り少ない日々を出来るだけのことをしてやろうと決心する。だが、身を切られるように残酷な少女の存在をめぐって両親の間には深い溝が出来ていた。そしてここ数ヶ月、屈折した感情を周囲にぶつけることの多くなった少女。ディアドルは知っていた。二度と自分にはあの楽しかった夏の思い出が戻ってこないことを……

### \*安っぽい涙を断固拒絶した悲しみのメルヘン

「クリスマス・ツリー」「エリックの青春」など、女性観客の紅涙をしばった薄命テーマの佳作である。しかしこの作品は単なるお涙頂戴ものではない。自分の運命を察知しながら、必死に生きようとする一人の少女と、周囲の人々との感動的な心の交流を淡々としたタッチで描き、力強い人間讃歌にまで高めたその作品世界は、観るものに安っぽい涙を流すいとまも与えない。

監督のドン・テイラーはこれを「愛の作業」だったと語り、自らの作品経歴にこの作品が加わったことを誇りにしたいという。母親役のロイス・ネットルトンは、人生のガイドラインのようなものを作品に感じたという。

「早く25才になって大人の恋がしてみたい！」——悲痛な魂の叫びを残しながら、最後の誕生日を迎えようとするに至る少女の三日間の心と行動の航跡を描いた「別れのこだま」は、観るものにさまざまな感動の波紋を呼ぶはずだ。

### \*ハリウッド子役パワーを代表するJ・フォスターの魅力

この作品の成功の原因は、何と言っても幸薄い少女の心象風景を清新な魅力で演じたジョディ・フォスターの子役ぶりだろう。1962年ロサンゼルス生まれ。母親が映画会社のエージェントだった関係で、幼い時からスタジオに出入していたのがきっかけでCMに出演するようになり、間もなくディズニー・プロのスカウトの目に止まった。「ナゴレオンとサマンサ」などに出演した後、「トム・ソーヤの冒険」のベッキー役で注目され、以後「カンサス・シティの爆弾娘」「アリスの恋」に活躍。13才で出演した本編と「タクシー・ドライバー」の娼婦役は、彼女の子役としての空恐しさを立証するのに十分な出来。新作に「バグシー・マローン」「ダウンタウン物語」「気まぐれな金曜日」「キャンドルシュー」などが控えている。将来、世界をクリーンにするために弁護士か作家になりたいという。

共演は、英国の才人スター、リチャード・ハリス（サウスダコタの戦い）、TVの実力派ロイス・ネットルトンとウィリアム・ウィングム、名女優ジェラルディン・フィッツジェラルド、名子役ブラッド・サベージら。

監督は二枚目俳優から転身したドン・テイラー（トム・ソーヤの冒険）、リチャード・ハリスの主題歌（作詞・作曲・歌）、ジョン・コキロンのカナダ・ノバスコシア半島のロケも見事に作品ムードを盛り上げている。

**近日愛のロードショー** **有楽町 スバル座** (212) 2826  
 特別鑑賞券 ¥900 (一般 ¥1200 (学生 ¥1100) の処) 好評発売中!!  
 有楽町駅前(そごう側)有楽町ビル内